

Action Plan 01 科学的エビデンスに基づいた信頼性の高い情報発信

(1) 社会課題に応じて“科学情報”を市民に分かりやすく発信する

● 「正しく学ぶ！感染症から『いのち』と『暮らし』を守る講座」Season2

一般社団法人ナレッジキャピタルと提携して市民向けのセミナーを毎月開催
 … 幅広い話題について、大阪大学のさまざまな分野の研究者がわかりやすく解説
 する全12回のプログラム。前年度に続き、Season2として12回実施。



実施	テーマ	担当	実施	テーマ	担当
4/27 オンライン	下水疫学～下水から見える新型コロナウイルス感染症の流行動向～ 【再生回数：1093回】	村上 道夫 北島 正章	10/28 オンライン	コロナ禍における研究情報の発信を振り返る— 「プレスリリース」の目利きになるう— 【再生回数：645回】	井出 和希 岸本 充生
5/27 オンライン	風しんの抗体をもっていると思いませんか？ 【再生回数：1423回】	大竹 文雄 佐々木 周作	11/25 オンライン	病原体を排除するからだのしくみ 【再生回数：601回】	山崎 晶
6/24 オンライン	院内感染症の原因細菌「黄色ブドウ球菌」の最近の話題 【再生回数：1331回】	松岡 悠美	12/23 オンライン	コロナ関連政策にはどれぐらいの効果があつたのか？ 【再生回数：583回】	北村 周平
7/29 オンライン	世界のコロナ禍を通して見えた日本の学校保健 【再生回数：654回】	杉田 映理 友川 幸 ほか	1/27 ハイブリッド	WithコロナとこれからのWithメンタルヘルス 【再生回数：2461回】	八木橋 真央 佐久間 篤 ほか
8/26 オンライン	コロナ研究で活躍する「遺伝子発現解析法」とは？ 【再生回数：974回】	奥崎 大介	2/24 ハイブリッド	病原性寄生虫「トキソプラズマ」が起こす感染症のサイエンス 【再生回数：516回】	山本 雅裕
9/30 オンライン	COVID-19感染流行で見てきた日本の感染対策の効果 【再生回数：1230回】	池田 陽一 中野 貴志 ほか	3/24 ハイブリッド	データで読み解く新型コロナ感染症のいま 【再生回数：378回】	佐々木 健志

(2) セミナー・講演会の実施

学外より多方面のスピーカーを招待するセミナーを開催し、情報発信力・政策提言力の強化に活かす

● CiDER適塾セミナー **オンライン** 【参加者：各回約20名】



第1回
「新型コロナウイルス感染症とグローバル・ガバナンスの課題」
武見 綾子 准教授
(東京大学 先端科学技術研究センター)



第2回
「コロナ対策の政策評価分析：緊急事態宣言・医療提供体制・子どものマスク」
高久 玲音 准教授
(一橋大学大学院経済学研究科/国際・公共政策大学院)



第3回
「フェイクニュースとの共存戦略」
鳥海 不二夫 教授
(東京大学 大学院工学系研究科システム創成学専攻)



第4回
「研究拠点を支える寄付基盤の構築」
渡邊 文隆
(京都大学 経営管理研究部・教育部 博士後期課程)



● 災害後の差別とその研究：原発事故と新型コロナ感染症

ハイブリッド 【参加者：約50名】



小林 智之 助教
福島県立医科大学 医学部 災害こころの医学講座



(3) Discussion Paper/Policy Discussion Paper の制度化

- CiDER Discussion Paper (CiDER-DP)
- CiDER Policy Discussion Paper (CiDER-PDP)

CiDER研究者の研究成果を論文形式でとりまとめ、迅速に公表することで活発な議論の喚起、学術論文への政策評価や政策提言などにつなげる



1件



4件

(4) 感染症に関する多角的な情報発信

● 感染症に関する多角的な情報を発信する専用ウェブサイト「+CiDER」(プラスサイダー) 開設

動画等で専門家が分かりやすく情報発信



感染症情報に関する動画



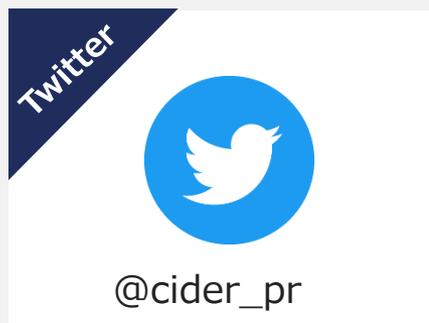
研究者へのインタビュー動画



研究者による感染症に関する記事



● TwitterとYoutubeチャンネルを開設 SNSを通して幅広い世代に情報を随時発信



● CiDERメールマガジンの発信 イベントやおすすめコンテンツのお知らせ



会員数：約1400名

(5) CiDERシンポジウムの開催

● 第2回 CiDER SYMPOSIUM

ハイブリッド

【会場：112名／オンライン：298名／満足度：95.1%】

「わかりやすく学ぶ 感染症研究の最前線」

日時：9月4日（日）13：00～16：10

場所：千里ライフサイエンスセンター（大阪府豊中市）

第1部 講演会 「臨床現場における感染症対策」「感染症研究の最前線」
「感染症克服に向けた免疫研究」「社会心理学からみた感染症」

第2部 パネルディスカッション 「感染症対策と研究のこれまでを知り、これからを考える」



参加者の声

臨床、基礎、また人文科学の視点からコロナウイルスとその感染について俯瞰することができ、興味深い内容だった。

CiDERの意気込みが感じられ、日本の感染症研究とリテラシーの向上に期待が持てた。

● 第3回 CiDER SYMPOSIUM（大阪大学シンポジウム）

「私たちのくらしとワクチン」

ハイブリッド

【会場：194名／オンライン：404名／満足度：94.6%】

日時：1月7日（土）13：00～16：30

場所：大阪府立国際会議場（大阪市北区）

第1部 講演会

「これまでの新型コロナウイルス感染症対策について」「感染症ワクチンの効用と改善点」
「ワクチンの効果評価～何人の人が病気にならずに済んだのか？～」

第2部 パネルディスカッション 「どうするワクチン接種？」



参加者の声

感染症予防学等自然科学のみならず、行動経済学など社会科学の観点を交えた多角的な観点からの議論は、大変、興味深かった。

会場参加者の高校生、これからの成長が頼もしく思えた。

● 「大規模イベントの楽しみはどのように取り戻されてきたか ～2025年大阪・関西万博を見据えて～」

オンライン

日時：2月20日（月）10：00～12：00

【合計視聴者数：109名／同時視聴数：92名／満足度：95%】

これまでの大規模集会以での感染症対策に関する実践例を共有するとともに、大阪・関西万博の準備に向けて議論を展開。

参加者の声

さまざまな分野や機関がどのように大規模集会の開催に協力したかがよくわかった。

大規模集会を開く上での参考になった。
下水疫学の話に関心を持った。



研究活動

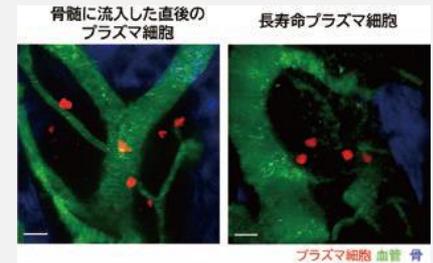
■ 学術論文47本／■ プレプリント16本／■ 学会発表（国内）36本（海外）10本

(1) 感染症および免疫学にかかる研究成果 ① – CiDER研究者の主な成果

● 長期生存プラズマ細胞の同定 – 伊勢涉 (生体応答学チーム) –

マウスのプラズマ細胞を1年に亘って追跡した結果、誕生してすぐのプラズマ細胞はB220^{hi}MHC-II^{hi}という表現型を示し、さらにその一部はB220^{lo}MHC-II^{lo}という表現型に変化し長寿命を獲得し、骨髄内で静止した状態で生存することを明らかにした。

J Exp Med. 2023.

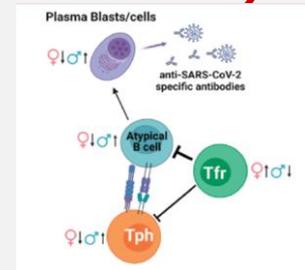


● COVID-19感染に対する免疫反応の性差

– James Badger Wing (ヒト生体防御学チーム) –

COVID-19感染では、T 濾胞制御細胞(Tfr)と呼ばれる抗体産生を適切に制御する鍵となる細胞がすべての患者で減少し、この傾向は男性患者でより強く、また女性患者に比べて抗体産生T細胞およびB細胞の数が増加していることを明らかにした。

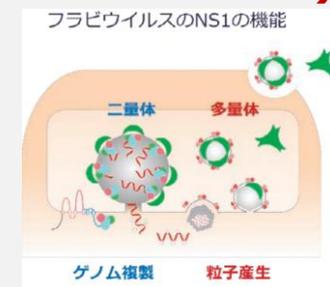
Proc Natl Acad Sci USA. 2023.



● フラビウイルスの非構造蛋白質NS1はウイルスゲノム複製と粒子産生に関する – 松浦善治 (ウイルス制御学チーム) –

デング熱やジカ熱を引き起こすフラビウイルスの非構造タンパク質NS1の粒子産生に関する機能ドメインをバイオインフォマティクス的手法で予測し、生化学およびウイルス学的手法によって分泌型NS1の異なる多量体がゲノム複製と粒子産生に必須であることを明らかにした。

PLOS Pathogens. 2022.



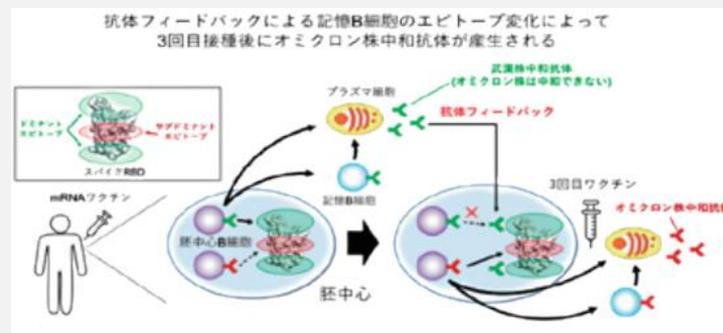
(1) 感染症および免疫学にかかる研究成果② - オール阪大研究からの主な成果

● 3回目のワクチン接種によりオミクロン株中和抗体が産生される仕組み

— 黒崎知博 —

COVID-19ワクチン接種者のB細胞を解析した結果、3回目接種前の記憶B細胞はウイルス抗原への親和性が向上しているだけでなくエピトープも変化しており、3回目接種時にこの記憶B細胞がオミクロン変異株も中和できる抗体を産生していることを明らかにした。

J Exp Med. 2022.

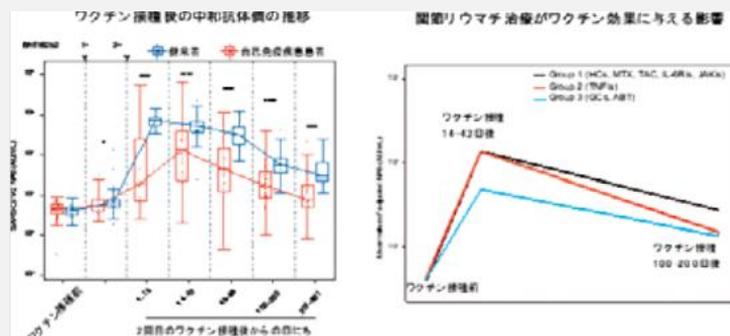


● 免疫疾患における新型コロナワクチン効果の持続性

— 熊ノ郷淳 —

自己免疫疾患患者における COVID-19のワクチン接種後の抗体価を解析し、ステロイドやアバタセプト、TNF- α 阻害薬での治療を受けている患者ではmRNAワクチンによる免疫反応が早期に減弱することを明らかにした。

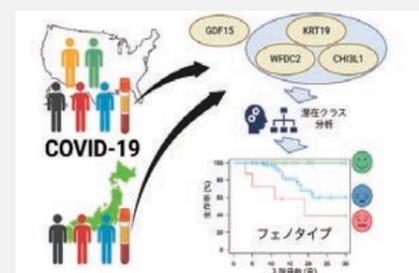
Lancet Reg Health West Pac. 2022.



● COVID-19の重症化を予測する3つの血中蛋白質

— 小倉裕司 —

COVID-19患者の血液中の様々な蛋白質を解析し、WFDC2、CHI3L1、KRT19、GDF15の4種類の蛋白質が重症例で有意に上昇していること、さらにWFDC2、CHI3L1、KRT19の3種類の蛋白質の測定値を用いて死亡率の高い集団を同定できることを明らかにした。 J Clin Immunol. 2022.



(2) 部局横断型「感染症」研究促進プログラム

- COVID-19克服を目指してスタートした分野横断型の「オール阪大研究プロジェクト」をさらに発展させ、部局横断型の共同研究を強く推進するプロジェクトとして実施。37課題を採択。

(3) CiDER Seminar on Microbiology and Immunology

- 「疲弊T細胞におけるmTORの役割」 Dr. Koichi ARAKI 参加者77名
- 「内在性レトロエレメントLINE-1の神経炎症・神経変性における役割について
—SARS-Cov-2に対する免疫応答の性差について」 Dr. Takehiro TAKAHASHI 参加者91名
- 「新型コロナウイルスに対する液性免疫記憶」 Dr. Yoshimasa TAKAHASHI 参加者47名
- 「PD-1 combination therapy with IL-2 modifies CD8+ T cell exhaustion program」
Masao Hashimoto, MD/PhD 参加者51名
- 「Germinal center responses to mRNA vaccines in humans and mice」
Michela Locci, PhD 参加者78名

(4) 国際シンポジウムの開催

- 第20回「あわじ感染と免疫国際フォーラム」 大阪大学微生物病研究所他と共同主催 参加者184名
- 2022 UBC&OU Virtual Symposium on Infectious Diseases and Drug Development
ブリティッシュ・コロンビア大学（カナダ）と共同主催 参加者60名
- International Symposium on Microbiology and Immunology
大阪大学免疫学フロンティア研究センター（IFReC）と共同主催 参加者135名

研究活動

■ 学術論文41本 / ■ 学会発表（国内）25本（海外）7本

(1) 教育コンテンツ配信サイト「CiDER-EDU」の新設

● 病院の第一線で感染症診療にあたる医師らが監修した登録制の教育コンテンツ配信ウェブサイト「CiDER-EDU」を開設

… 一般の方々の疑問に答えられるようなわかりやすい解説から専門的な講義まで幅広く感染症教育コンテンツを提供



コンテンツ数：57件

全ページビュー
141,568回

登録者数：3,291人
(2023.3.13現在)

提供している教育コンテンツ ▶ さらに随時作成中

感染症診療の原則	肺炎球菌	腹腔内感染症	グラム染色
感染症総論	咽頭痛	小児の発熱の診かた、考え方	細菌性髄膜炎
輸入感染症へのアプローチ	入院中の発熱マネジメント	黄色ブドウ球菌とその類縁菌	尿路感染症
HIV感染症	タイの耐性菌	デング熱・チクングニア熱・ジカ熱	日本脳炎



くつ塾「感染症の症例報告を書いてみよう」
研修医向けの論文投稿指南



検体解析
一般向けの検査手法
解説動画



講義動画の公開
医学部生講義に用いた
教育コンテンツの配信



東南アジアの熱帯感染症シリーズ
熱帯感染症医師研修事業の一環としてのシリーズ動画



人材育成部門の
YouTubeチャンネルを開設
@kutsuoh_cider

(2) CORE-ID 2022 (初期臨床研修医向け感染症研修プログラム)スタート

● 初期臨床研修医を対象として、2年間を通じて感染症を広く学ぶための研修プログラム (月1回、全22回分をオンデマンド配信)

…感染症診療の底上げ及び感染症専門医志望人材の増加を目指す

2022年度配信			第6回	肺炎	濱口 重人
第1回	感染症診療の原則	忽那 賢志	第7回	抗菌薬適正使用とかぜ診断	山本 舜悟
第2回	院内発熱のマネジメント	佐田 竜一	第8回	咽頭痛	松尾 裕央
第3回	臨床微生物検査と臨床的に重要な微生物	山本 剛	第9回	CRBSI	佐田 竜一
第4回	免疫不全と感染症	吉田 寿雄	第10回	尿路感染症	小西 啓司
第5回	抗菌薬の使い方	忽那 賢志	第11回	ワクチン	山岸 義晃



CORE-IDの受講者数

- 受講者累計: **727**名
- 大阪府下臨床研修病院のうち、**37**施設から参加

CORE-ID 2022 受講者数の推移: 20220525-20230310



(3) 大阪感染症サマーセミナー2022をはじめとする各種研修会等を実施

● 大阪感染症サマーセミナー2022 (7/31)

具体的事例に基づく症例検討会を豊富に設けた実践的研修 (オンライン開催)

● 日本感染症教育研究会 (IDATEN) と共同主催して行う感染症診療にかかる教育普及活動

- ・ IDATENケースカンファレンス (9/17) / ・ IDATENオンラインセミナー (12/10)
- ・ IDATEN北海道クリニカルカンファレンス (1/28)

● 感染管理区域で従事する医師・看護師のための研修会

- ・ 大阪府医師会との共催で、年3回 (10月、11月、12月) 実施
- ・ 各診療機関内における感染対策リーダーの育成をはかる

● 微生物検査技師を対象としたセミナー (2/19)



● 感染症医のためのキャリアプランセミナー (2/25)

● その他、保健所、都道府県医師会、感染症学会、薬剤師学会、自治体等の実施するセミナーに講師やアドバイザーとして連携協力

研修会等を計144回実施、のべ27,000人が受講

学内の医歯薬系学生へ感染症関連の教育実施
年間53コマ

研究活動

■ 学術論文48本 / ■ プレプリント2本 / ■ 学会発表 (国内) 17本

(1) 拠点マネジメント体制の整備

● 外部有識者委員会の設置（助言・評価を得る）

… CiDERアドバイザリーボードの設置（8/23開催）

「人文社会科学系とライフサイエンス系が融合した拠点で、今後のロールモデルに」等

● 拠点運営マネジメント体制の整備

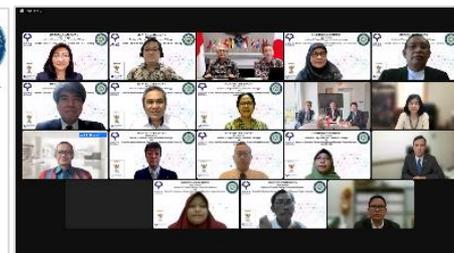
… 執行部会議体制（迅速な指示）、企画室の設置・事務室の拡充など

(2) 国内外関係機関との連携強化

● ASEAN地域の研究機関との連携

… アイルランガ大学（インドネシア）

ITD（熱帯感染症研究所）との
包括連携協定を締結（4/22）



● 感染症研究教育拠点連合（4大学連合 北大・東大・阪大・長崎大）への加入

… 2022年度から加入が決定

(3) 感染症教育研究棟整備事業

● 設計施工業者の選定、基本設計

… デザインビルド（DB）業者を公募入札により
選定（8月）、基本設計を策定（2月）

➡ 2023年度着工、2025年2月竣工予定

